

北薩の輝き

良質な教育環境づくりを推進する北薩の教育

なぜ、過去問を扱うことが必要なのか？

指導課長 堀口 俊雄

全国学力・学習状況調査の目的は、①義務教育の水準の維持向上、②学校の教育指導の充実と学習状況の改善、③継続的な検証改善サイクルの確立である。また、高大接続による入試改革が進む現状で、全国学力・学習状況調査で問われている学力は、学習指導要領で示されている児童生徒に身に付けさせなければならない学力である。

平成30年度中学校英語予備調査問題(必要な語を加える) (昼休みに教室で) A:What will you do tomorrow? B:Well, (go)shopping.	➔	平成30年度鹿児島学習定着度調査問題(中2英語)(適切な語を加える) (授業前,教室にて) Miki:what are you doing? Lucy:I'm looking for a pen. I need one now. Miki:I have many pens. (use). Lucy:Thank you very much. <div style="background-color: yellow; padding: 2px; text-align: center;">平均通達率: 23.7% 無答率: 28.5%</div>
	➔	平成31年度全国学力・学習状況調査問題(英語)(適切な形に変えたり,必要な語を加えたりする) (放課後に図書室で) A:Can you help me now? B:Sorry.I (do)my homework now.

ここに示したのは、英語の予備調査問題、定着度調査の問題、全国学力・学習状況調査問題の一部である。会話文に合うように与えられた語を変化させたり、適切な語を加えたりすることを要求している類似問題となっている(実際、予備調査問題と類似した問題が多く出題されている)。

このことから、児童生徒が出題される問題に慣れていない、解法を十分習得していないことが伺える(※他の教科も同様の結果である)。

先述したとおり、本調査問題は児童生徒に身に付けさせなければならない力を示しているため、定着が不十分な問題に対しては、年間をとおして意図的・計画的・継続的な取組が求められる。

当然、求められている学力を身に付けさせる授業改善も同時進行で進めなければならないのはいうまでもない。

当教育事務所では、本地区の課題である「算数・数学のB問題」に対応するため、本県公立高校入試問題や全国学力・学習状況調査の問題等を組み込んだ「北薩地区算数・数学単元評価問題」をweb上に掲載している(現在、中1・2年、今後追加予定)。課題に対して、少しずつ計画的・意図的に、継続した取組を、学校の実態に応じて進めていきましょう。

主体的・対話的で深い学び〔長島町立鷹巣小学校〕

本校では、平成29・30年度に「指導法改善」の研究に取り組み、「分かる授業」の実践や「学習のしつけ」の徹底、「特色ある教育活動」の展開を行ってきた。

授業改善3ポイントの一つ「練り合いの場の工夫」



子供たちに理由を問う様子

複数の解き方が出てきた際、子供たちによりよい解き方だけでなく、「なぜ」「どうして」などと判断した理由を問うことで、子供たちが自分の考えを整理し、根拠を明確にして具体的に発表することができた。

授業改善3ポイントを設定し、明確な指導観をもって学習指導を行うことで、学習意欲の向上につながり、主体的に学習に取り組むようになった。また、学習のしつけを繰り返し指導することで、落ち着いた環境の中で学習に取り組み、学力向上につながった。今年度はこれまでの研究を生かしながら国語科の研究を進めていく。

全職員による学習のしつけの徹底



授業開始1分前に着席・黙想をしている様子

「当たり前のことを当たり前」に、繰り返し指導すること」を全職員の共通実践とし、授業開始1分前着席・黙想や学習道具の準備など学習のしつけを徹底することで、子供が集中して学習に取り組めるようになった。

〈教育事務所から〉

鷹巣小は練り合いの場を重視し、子供の発言に対し「どこを見てそう思ったの?」「〇〇くんは計算のしやすさを考えたんだね」などの教師のリヴォイシグ(再声化)を充実させ、メリハリのある授業を展開しています。

～学校における働き方改革（業務改善）の取組について（国・県の動きより）～

学校における課題が複雑化・多様化する中において、新学習指導要領を踏まえた教育課程を確実に実施し、質の高い教育を持続発展させるためには、学校現場における働き方改革を実質的かつ着実に推進していくことが必要不可欠です。

【国の動向】

学校における勤務時間管理に関して「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」を策定、中央教育審議会は、「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について」の答申が行われました。（H31. 1）

【県の取組】

「学校における業務改善方針」を策定し業務改善を推進する基本的な方向性が示されました。（H30. 3）

「長時間勤務要因分析調査」を実施し有識者で構成される業務改善方策検討委員会で様々な課題等について検討されました。（H30. 6）

また「教師の勤務時間の上限に関する指針」が策定されるとともに長時間勤務の削減方策として本県の実情に即した数値目標を設定し中長期的な具体的取組を「学校における業務改善アクションプラン」として取りまとめました。（本プランの計画期間は令和元～3年度までの3年間）

概要は以下のとおり

目標

- 正規の勤務時間を超える勤務は月45時間以内
- 教職員の80%以上が「業務改善が進んでいる」と実感

重点取組

- 1 業務改善に対する意識改革（適正な勤務時間の管理、リフレッシュウィーク、定時退校日、退勤目標時刻の設定等）
- 2 事務の負担軽減と専門スタッフ等の活用（事務の負担軽減、「チームとしての学校」の体制づくり等）
- 3 授業準備の効率化と時間確保（授業準備等の時間確保、教材の共有化等）
- 4 部活動に係る勤務状況の改善（部活動休養日等の設定、活動方針と活動計画の策定等）

学校での業務改善の取組事例紹介

- ・ 出退記録の見届け及び各自データの蓄積・ICT機器を活用した職朝の実施（印刷、説明の時間短縮）
- ・ 毎週金曜日の「ノー残業デー」設定等

児童生徒等の安全確保について

児童生徒等の安全確保については、日頃から御尽力いただいているところですが、今般、子どもが犠牲となる事故が相次いで発生しています。県教委は5月28日、登下校時の安全確保対策を改めて強化するよう、各市町村教委に通知しました。

6月15日には出水市において北薩地区スクールガード・防犯ボランティア等研修会が開催されました。104人の参加が有り、登下校時の見守りや活動交通安全、実技を交えた不審者等への対応など充実した研修会となりました。

「事件・事故はどこで起きても不思議ではなく、特効薬はないが、最大の抑止は地域での見守り」との講話がありました。住民が登下校時に通学路を散歩するなどの「ながら見守り活動」の啓発を積極的に行い、児童生徒等が安全・安心に生活していけるよう御協力をお願いします。

合同計画訪問

「おはようございます!!」、「こんにちは!!」児童生徒や職員からの元気な挨拶で迎えていただき、気持ちよく市町教育委員会との合同計画訪問を実施中です。

全ての訪問校で学校自慢となる特色ある教育活動や保護者・地域と連携した取組が実践されていきました。また、授業では「めあて」と「まとめの整合性」や「振り返りの充実」など、「北薩の授業づくり3ポイント」を意識した内容が多くみられました。

今年度は、小学校18校、中学校7校、義務教育学校1校の合同計画訪問を予定しています。



上場小（4年・理科）

北薩地区PTA指導者養成事業

6月22日（日）に出水市中央公民館で、北薩地区PTA指導者養成事業を開催しました。5市町から140人を超える参加があり、PTA活動、人権教育、家庭教育について、3人の講師による豊かな経験を生かした研修を行いました。

「PTA活動の原動力」「ナンバーワンの子育てではなく、オンリーワンの子育て」「子供を育てる心意気」など、様々な視点からの講話に、PTA活動の推進に向けた取組や人権教育・家庭教育を見つめ直すとても良い機会となりました。



良質な教育環境づくり

今年度の「北薩の授業づくり3ポイント」については、昨年度までの「めあて」と「まとめ」の整合性に加え、本時の授業を「分かった、できた」と児童生徒が実感できるための振り返りの充実を図る取組に努めてください。

編集後記

7月14日は「県民の日」です。鹿児島県の歴史や文化などを見つめ直し、ふるさとを愛する心を育むことによって、自信と誇りにあふれる、より豊かな鹿児島を築き上げることを期する日となります。県や各市町等が実施する関連事業もありますので、積極的な周知をお願いします。